

桜の挿し木による繁殖の確立へ

1. 背景・先行研究



図1.ウコンザクラ

図2.ソメイヨシノ

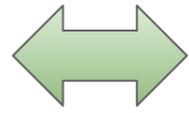
図3.旧校舎の様子

ウコンザクラ
ソメイヨシノ

自家
不和合性

種子のできない桜を
増やすには？

接ぎ木



挿し木

・一般的に用いられてる

・行われていない

・難しい

技術的には挿し木のほうが簡単である

2. 目的

伝統ある三高の桜を保全する



今ある桜を挿し木で増やせるのか検証する

3. 仮説

桜を挿し木で増やせるのではないかな？

4. 実験方法

実験1

ソメイヨシノの枝を三種の培地に挿す
(新芽を使用)



図4.5.6 実験の様子

実験2

濃度の違うオーキシン水溶液に挿し木を
して一週間ごとに溶液に量を計測、4週
間後に根の状態を観察
(新芽ではないものを使用)



5. 結果

実験1

・どの培地からも
発根が確認された

・12本中6本
から発根した



図7.8 発根の様子

実験2

・濃度と残った溶液の量に相関は
見られなかった

・濃度の低いほうが切り口
の変化が顕著であつた(左が-4乗、右
が-8乗)

図9.10.11 実験2の結果



6. 考察

・実験1の結果より三高の桜を挿し木で増やすことは可能だと考えられる

・実験2の結果より、オーキシンの適切な濃度はもっと低いものであると考えられる

実験1と2の違い 新芽を使用したかどうか



新芽しか挿し木がか成功しない可能性が高く、分化全能性が関係している？

7. 使用した枝について



図12.ソメイヨシノ

図13 実験で用いた
木の花



ソメイヨシノの特徴①
萼筒に毛が生えている

②萼筒の色が赤(紅)色

①、②と写真の比較より、ソメイヨシノと断定

8. 今後の展望

①より多くの枝で検証を行い、再現性を高める

②新芽と発根の関係性を調べる

③オーキシンの濃度をより低くして実験する

④実験 1で根が生えた桜の今後の成長を観察する

9. 文献

サクラ挿し木における分類群ごとの発根の季節特性 岩本宏二郎 勝木俊雄 古市優子

サクラの効率的な増殖法および切り花における開花制御法の確立 田中秀幸

三河の植物観察 <https://mikawanoyasou.org/index.shtml>